して図版は私の「鳥類原色大図説」vol. ii, pl. 89, fig. 654 (1934) に現わされている (記載は参照のこと) 色彩はこの方は濃色であり, 2種の雄種として明かに示されている。測定は全長480mm, 翼247, 嘴峰47である。今回のものに比し形態上の差は認められない。ただ惜むらくは今回の標本の測定をする機を失した点である。

外国でもこの様な雑種例は報ぜられる。2種の内どちらがオスは不明であるが, 体の大きさから考えるとどうもコガモがオらしい。勿論この逆もあり得る。現に Helsinki で野生のアメリカコガモ♂とマガモ♀が pair になっている写真がある位である (Raitasus, Orn. Fennica, 41 (2): 56-59, 1 photo (1964) 参照)。

〔II〕 夏の宮古島沖の海鳥

望 月 英 夫*

Summary

Seabirds in summer off Miyako I., Okinawa Is.

Hideo Mochizuki

Seabirds were observed on the skipjack fishing vessel (34 G.T.) off Miyako I., in June 30. July 2, 3 1965. I counted birds generally dispersed in fishing ground that passing by port or starboard in 100 m square and birds attached to school of skipjack *Katsuwonus pelamis*.

List of observed birds as follows:

Very Common *Sterna fuscata*

Common *Bulweria bulweri*, *Calonectris leucomelas*

Sula leucogaster, *Anous stolidus*

Less common *Puffinus Pacificus*

Doubtful *Sula dactylatra* ?

Sterna dougalli and *S. sumatrana* were observed on the coral reef but never observed offshore fishing ground.

1965年6月30日, 7月2, 3日, 沖縄宮古島の北沖にてカツオ漁船・照幸丸 (池間港所属 34.18 G.T. 航海速力7Kt) に乗船し海鳥の観察を行なった。

乗船に際しお世話になった宮古水産高等学校と座住安氏・善国乗悦氏, 船主と座金真氏, 船長長嶺宗治氏乗組員諸氏, 沖縄魚類研究所久高喜八郎氏に感謝いたします。

方 法

前述3日間に16時間式漁し (Fig. 1 参照) 漁場内及び航行中船橋にて7×50双眼鏡を用いカツオ魚群に付く (カツオが追いあげた小魚等を求め海鳥が魚群を追う状態) 海鳥と漁場内に分散している海鳥の観察を行なった (9時間5分・片舷100m四方の枠内に出現するものを重複しないように数えた)。種名は以下による。

結 果

航程は Fig. 1 に示した。7月1日は2日と略同だった。この結果6種と不確定1種を記録しカツオ魚群に付いた12群を認めた (16~506羽, 1群あたり3.3種, 119.8羽)。尖閣列島ではカツオドリ・クロアジサ

*都立大島高等学校水産科

Fig 1 Observed course off Miyako I. (the course in July 3 as same that of in July 2)

シセグロアジサシ・オオアジサシの繁殖が報告されている(高良, 1954)が今回オオアジサシは認められなかった。ベニアジ・サシエリグロアジサシは沿岸色強く宮古島のサンゴ礁周辺で少数を認めたが、沖合の漁場では全く認めることができなかった。

漁労が終り次の鳥群又は魚群を見つけるまで漁場内に分散している鳥数をカウントしたが魚群への密集度がかなり強く漁場内に分散しているものは少ない(9h×7kt=63Mだから観察面積=63×1853×100m²÷11.7km², 出現鳥数は89だから76.1羽/10km²)。

Table-1 Number of seabirds attached to skipjack school and generally dispersed in fishing ground.

S. name	birds attached to skipjack in 12 groups	birds generally dispersed in 100m square
<i>Bulweria bulwerii</i>	0	12 (13.5%)
<i>Puffinus Pacificus</i>	13 (0.9%)	0
<i>Calonectris leucomelas</i>	114 (7.9)	6 (6.7)
<i>Sula leucogaster</i>	30 (2.1)	3 (3.4)
<i>Sterna fuscata</i>	868 (60.4)	41 (46.1)
<i>Anous stolidus</i>	412 (28.6)	13 (14.5)
Others	0	14 (15.7)
	fishing time 16h av. species 3.3 av. number 119.8 range 16~506	obs. time 9 h 5 m

① *Bulweria bulwerii* アナドリ

ふつう単独で最大3羽だった。かなりふつうだが、魚群に付かないという性質がみられた (Table 1)

② *Puffinus pacificus*

12群のうち出現率25%, 1群あたり1~10羽, 平均3羽で少なかった。すべて淡色型だった。

③ *Calonectris leucomelas*

出現率41.7, 1群あたり1~100羽, 平均23羽。分散しているものは単独だったが, *pacificus* に比べかなりふつうだった。尖閣列島南小島では日没時に少数帰来するという (1954高良)。

④ *Sula leucogaster*

出現率は66.7とたかいが1群あたり1~11羽, 平均3.8羽と少なかった。南小島では多数繁殖していることが報告されている (高良1954) が, 数少なく幼鳥も認めなかった。

⑤ *Sula dactylatra* ?

6月30日, 本種とみられる大型白色カツオドリを認めたが確認できなかった。尖閣列島では「極く少ない」とされている。

⑥ *Sterna fuscata*

出現率91.7, 1群あたり4~450羽, 平均78.9羽で最も多かった。ふつう1~2羽で10m前後の高さを飛び, 群れるとよく目立ち, 魚群の探知によく役立っていた。

⑦ *Anous stolidus*

出現率100, 1群あたり10~100羽, 平均羽34.3で前種に次ぎ多かった。ふつう単独で低く飛ぶので目立ちにくかった。

参 照 文 献

- (1) 日本鳥学会 (1958) 日本鳥類目録
- (2) 高良 鉄夫 (1954) 尖閣列島の動物相について 琉球大学農学部学術報告第1号 57~74.

〔1〕 訂正箇所 鳥 19 (86) 1—7

	誤	正
p. 1	13行目	1963-'63-4 から '65-'69 → '63-4 月から '65-11月
2	31	D. <i>nigrilres</i> 10, D. <i>imm.</i> 4 → D. <i>nigri.</i> 10. D. <i>imm.</i> 4
3	20	緯度にして 0.2°C → 緯度にして c2°
5	下 6	沖合 300m → 沖合 300M (M=海里的意)
6	1	A では 200m 沖 → A では 200M 沖
	16	那珂港沖10m → " 10M
7	19	トンバラ岩の E15m → " E15M